

そほう  
組報

# みなみそ

創刊号

組報発刊にあたって

最近インターネット上に不思議な物語が飛び交っています。「世界がもし百人の村だったら」というものです。地球上の人口や経済の割合を人数に置き換えて、わかりやすくあらわしながら、世界なんか狭い、今からでもみんなが力を合わせれば救えると言っています。

しかし世の中では自分一人が幸せになれば、地元の人たちだけが利益を得られれば、自分の国だけ良ければと言うようなことが横行しています。もう遅いのかも知れませんが、親鸞聖人は「御同朋、御同行」と人々と共に暮らされています。今私たちもここにひとり、もう一度自分自身を

見つめていきたいものです。

\*

今回「組報」を発行する事となりました。これは今まで一部の方しか組の行事や研修に参加されていませんでした。そしていつも一回だけ、単発の行事としてしか機能せず、組も行事をこなしていくだけになっていました。これからの時代これではいけませんね。私たちは情報を共有しながら、それを次のステップに発展していくこと、そんな真の「御同朋、御同行」を目指していきたいと思えます。この組報がその第一歩となるのです。皆さん「組報」をよろしくお願いたします。

南組組長 高輪真澄

みなみそ

# 南組の行事から



## 仏教壮年講座

講師 本多静芳 師

テーマ「生老病死」

十月二十日 築地別院

参加九十七名

今回のテーマは「生老病死（しやうじふびやうし）」として、このテーマに沿って皆さまと仏様のみ教えを頂いてまいりたいと思います。

お釈迦様の教えの一つに、四つの聖なる諦（たい）と読む、「四聖諦（ししやうたい）」という言葉があります。諦は「あきらめる」と読みますが、意味は「明らかに物事を見る」と言う意味の漢字です。お釈迦様がお悟りを開かれ、明ら

かに私たちの生きる姿をご覧になった時に、四つの誠の真実がありますよ。と言われたのが、順番に「苦諦（くたい）」・「集諦（じつたい）」・「滅諦（めつたい）」・「道諦（どうたい）」の「四聖諦」です。



熱心に聞き入る参加者

その中の「苦諦」をお釈迦様は「四苦八苦」と言われました。「四苦八苦」というのは、元々は思い通りにならないと言ったことをお釈迦様は「苦」と言われ、「その苦を大きく分けると四つ、あるいは八つある」と言われました。これが「四苦八苦」なのです。

その四つとは生・老・病・死。生は生まれると言ったこと。皆さまは思い通りに生まれてこられましたか？ 誰も頼んだわけではないけれど、気がついたら私に生まれってきました。生まれた以上は老いて行きます。そして病む。最後に死。同朋大学の先生から聞いた話ですが、生徒が「絶対に死な

ない方法が書いてある本が見つかった」と言うそうです。見てみるとその方法とは「生まれたくないことだ」とあったそうです。その通りですね。でも皆さま方は立派に誕生されていて、「生老病死」を越えることはできないのでしょうか？

お釈迦様の教えに「自灯明・法灯明」というのがあります。これはお釈迦様が亡くられる時に残したお言葉です。先ほど「誰に頼みもしないのに生まれたいのち」とありましたが、お釈迦様が言われた「自灯明・法灯明」は「私のいのちというのは確かに私が選んだ人生で、私が選び取っ

た人生だから、私の人生を全責任において生きましよう」というのが「自灯明」。「人類とか全世界を貫くみ教え。それはいつでもどこでも誰でも通用する、そう言う普遍の原理を法と言います。それを拠り所として生きて生きなさい」と言うのが「法灯明」であると言われ

ています。これがお釈迦様が最後に残した教えです。分かりやすく言えば「自分自身をよりどころとし、仏様の教えをよりどころとして生きてゆきなさいよ」と言い残されたのです。

最初の「四聖諦」で出た「明らか」に物事を見る」と言うのは、言い換えれば目覚めです。目覚めを持つて生きるのは、人間として理想的な生き方だと教えられたのはお釈迦様の教えである仏教の中心です。ここから生まれくる生き方

が「生老病死」を越えるのですが、別の言い方をすると、こういうものの見方をいただくことによつてそこに歎びや感謝が生まれくるのではないでしようか。そして、自分の思い通りにならない苦をなくすることはできませんが、その苦を引き受けて、いのちの通い合っている世界、浄土まで導かれてゆく生き方がある。そんな具体性を持つているのは念仏という仏様の呼びかけ。それを実際に称える、その呼びかけのいわれを聞いていくという事が、生老病死と言うものをしつかりと引き受けて、越えていく事で、その越えていく道を親鸞聖人は浄土真宗として示してくれたと私は思っています。



## 南無僧侶研修会

講師 藤沢正徳師

十二月六日 善永寺

参加十四名

今回は、同朋運動として、私たちがどういう活動をしてきたかを、資料をもとに示してまいりたいと思います。

以前は、教団内にも、「部落差別の問題など自分の教区や組にはない」という受け取り方をしているお寺が多かったのですが、運動の成果として、現に部落差別の事例は教団内に多く存在しており、自分たちとかわりがないものとする事は許されなないと思えます。

この点について、一九九〇年のご親教の中で、ご門主として初めて「人権」という言葉を用いられ、「日本の敗戦後間もない一九五〇年に同朋会が設立されて以来今日まで四十

年、多くの方々が同朋運動を推進し、教団の体質を改め、社会に自由と人権を確立するために、お力を尽くして下さいました。・・・今日差別撤廃、人権擁護は世界的な課題になりました。人権をなおざりにして、経済力を誇ることにむなしさを感じます。本当に大切なものは何かを、生活を通じ、人生を通じて明らかにしてゆかなければなりません。・・・しかし、それは私がお何をしてもいい、何もしないでいい、ということではありません。反対に、阿弥陀如来がついていて下さるから、大切なことも精一杯やりましょうということではないでしようか」と述べられています。

また、ご門主は一九九七年に「基幹運動推進 御同朋の社会をめざす法要」に際してのご消息の中でも、

「宗門には、因習による偏見

のもと、時代の波を克服することができず、差別を温存してきた歴史があり、今なお差別が残存していることは、念仏者として、仏祖のおんに慚欺せずにはいられません。私たちは差別を拒絶するために取り組んでこられた先人の努力の足跡を学び、差別の現実に学んで、その撤廃に積極的に取り組む姿勢を築きあげなければなりません。」

と述べられ、宗門の過去の事実を確かめ反省することも、同朋教団本来の面目を發揮するように、決意を新たにしたいと表明されました。

こうして教団が行なってきた同朋運動は、「同朋運動五十年趣意書」にもあるように十年前、二十年前には為し得なかった差別法名・過去帳の再調査が行なわれ、過去帳を通して、同朋運動の課題を僧侶自らの課題とする取り組みへ

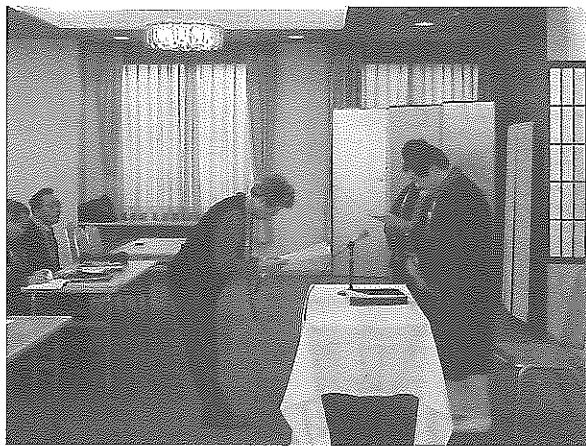
と展開していくことにもなり、全教団の課題となつていきます。同朋運動の目標は、差別・被差別からの解放です。同朋運動の進展とともに、また新たな差別事件も生じてくるという現実が存在していますが、私たちはこの熱い願いと決意の継続を改めて確認し、前進してゆこうとしています。

### 南組連続研修会（連研）

南組の第三期の連続研修会の修了式が二〇〇二年二月九日築地別院第二伝道会館・瑞鳳で行われ、組内各寺院からの参加者二十九名に修了証が授与されました。

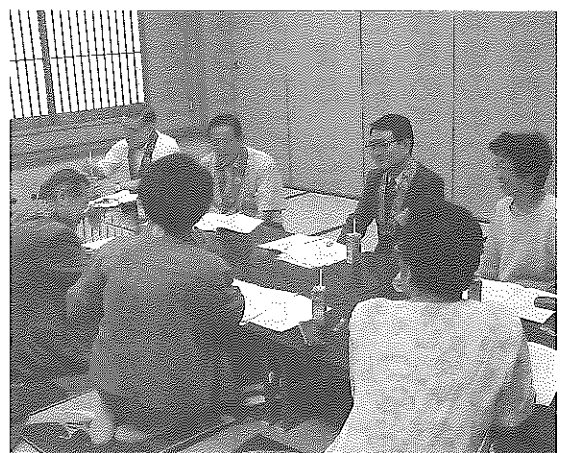
参加者は皆、おつとめや仏教讃歌の練習、制限時間をオーバーしての話し合い法座などなどの思い出を胸に、修了証を受け取っていました。

また、共に語り合い、理解を深め合った二年間をふりかえりつつ、慶びと充実感にみちあふれていました。そして、法座で得た成果と課題をたずさえて、今後、寺院や組での活動に邁進する決意を新たにしていました。



連研修了証の授与

浄土真宗本願寺派の基幹運動とは、本願を究極の拠りどころとして生きられた親鸞聖



話し合い法座の二コマ

人に学び、つねに全員が聞法し全員が伝道して、私と教団の体質を改め、差別をはじめとする社会の問題に積極的に取り組み、御同朋の社会の実現をめざす運動であり、僧侶・門徒のたゆみない本来化への営みのことをいいます。

その基幹運動を進展させるために、門徒推進員の養成がはかられてきました。そして、その門徒推進員養成のために、「連続研修会」が開かれてい

るわけです。私たちは、よく「れんけん」ということばを見聞きしますが、「れんけん」というのは、「連続研修会」を略して「連研」（れんけん）と呼んでいるわけです。二年間に十二回（三十六時間以上）の法座に参加して、毎日の生活のなかで湧いてきた疑問や人生について皆で話し合い、み教えに問いたずねてゆくことを行います。

組での連研（寺連研を含む）修了後は、教区での連研履修者教区研修会を経て、三泊四日の門徒推進員中央研修を受講して門徒推進員に登録されることとなります。

今後、南組第四期連研の更なる進展と充実化のためにも、組内全寺院の僧侶も門徒も共に情報交換を密にしながら、相互に協力して法座活動することが期待されています。

### 開催日時一覧

- 第一回 二〇〇〇年四月八日  
善永寺 講師 藤澤正徳師
- 第二回 二〇〇〇年六月十日  
善永寺 講師 藤澤正徳師
- 第三回 二〇〇〇年九月九日  
善永寺 講師 上島昌彦師
- 第四回 二〇〇〇年十月十四日  
築地別院 講師 本多静芳師
- 第五回 二〇〇〇年十一月九日  
善永寺 講師 上島昌彦師
- 第六回 二〇〇一年二月十日  
善永寺 講師 多田恵章師
- 第七回 二〇〇一年四月十四日  
善永寺 講師 多田恵章師
- 第八回 二〇〇一年六月九日  
善永寺 講師 田ノ倉亮爾師
- 第九回 二〇〇一年九月八日  
善永寺 講師 田ノ倉亮爾師
- 第十回 二〇〇一年十月二十日  
築地別院 講師 本多静芳師
- 第十一回 二〇〇一年十二月八日  
善永寺 講師 上島昌彦師
- 第十二回 二〇〇二年二月九日  
築地別院 講師 藤澤正徳師

### 団体参拝旅行

四月四日～六日 京都  
参加五十六名

南組では毎年、各地の真宗

にご縁のあるお寺を参拝しております。二〇〇一年度は京都ご本山を中心に参拝いたしました。お晨朝参拝とおかみそりの受式、そして国宝の飛雲閣や修復中の御影堂素屋根見学など普段なかなか観られない所も拝観でき、参加者一同たいへん感激してお参りできましたようです。

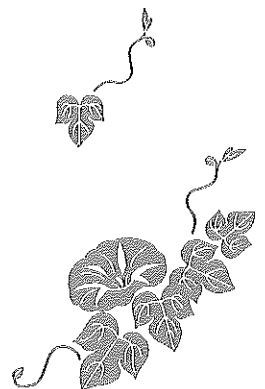


ご本山にて記念写真

### 仏婦総会・研修会

講師 南條了元 師  
テーマ「わたしたちの生活とお念仏」  
六月十四日 築地別院  
参加七十名

六月十四日一時半より、南組仏教婦人会連盟の総会と研修会が行われました。真宗宗歌の斉唱、勤行、組長・仏婦会長挨拶と続きまして、休憩の後、研修会へと移りました。研修会は「わたしたちの生活とお念仏」と題して南條了元師にご講演いただきました。アメリカでの生活の様子を交えたお話に、参加者一同興味深く聞き入っております。



## 南組に所属する

## 浄土真宗本願寺派（お西）のお寺です

西光寺（さいこうじ）	140-0014	品川区大井4-22-16	3777-6070
最徳寺（さいとくじ）	143-0016	大田区大森北3-18-25	3761-6811
徳浄寺（とくじょうじ）	143-0012	大田区大森東1-16-22	3761-4127
巖正寺（ごんしょうじ）	143-0012	大田区大森東3-7-27	3761-4945
久宝寺（きゅうほうじ）	144-0044	大田区本羽田3-17-1	3742-0886
海岸寺（かいがんじ）	144-0044	大田区本羽田3-17-6	3742-0921
福泉寺（ふくせんじ）	144-0047	大田区萩中3-27-10	3742-2048
光教寺（こうきょうじ）	143-0024	大田区中央4-35-3	3771-9408
専浄寺（せんじょうじ）	158-0082	世田谷区等々力6-7-10	3701-4753
報身寺（ほうしんじ）	144-0047	大田区萩中1-11-16	3738-0870
正覚寺（しょうがくじ）	144-0047	大田区萩中1-13-13	3731-9212
延徳寺（えんとくじ）	144-0047	大田区萩中1-12-17	3732-1472
福称寺（ふくしょうじ）	144-0047	大田区萩中1-12-20	3738-1720
妙覚寺（みょうかくじ）	144-0047	大田区萩中1-12-29	3738-3091
善永寺（ぜんえいじ）	144-0047	大田区萩中1-11-24	3739-5641
真光寺（しんこうじ）	144-0047	大田区萩中1-13-6	3731-5644
浄興寺（じょうこうじ）	146-0094	大田区東矢口2-10-9	3759-8673
唯称寺（ゆいしょうじ）	142-0062	品川区小山4-9-15	3782-2486
宗導寺（しゅうどうじ）	152-0002	目黒区目黒本町6-19-3	3712-6811
西教寺（さいきょうじ）	142-0042	品川区豊町1-8-12	3781-6154
善照寺（ぜんしょうじ）	143-0025	大田区南馬込4-9-11	3771-8700
永正教会（えいしょうぎょうかい）	152-0004	目黒区鷹番2-17-5	3714-0767

### 組報みなみそ 創刊号（2002年3月発行）

編集・発行 浄土真宗本願寺派東京教区南組 組長 高輪 真澄

東京都大田区萩中1-11-24 善永寺内

印刷所 有限会社 マコト印刷